

# 会 議 録

第 1 3 回定例会

開会 平成 2 7 年 1 0 月 2 0 日

## 教育委員会会議録

1 開 会 平成27年10月20日(火)午後1時30分

2 閉 会 平成27年10月20日(火)午後2時35分

3 出席委員

委員長	松重 和美
委員	西 泰宏
委員	田村 典子
委員	坂口 裕昭
委員(教育長)	佐野 義行

4 出席者

副 教 育 長	木下 慎次
教 育 次 長	清水 敏彦
教 育 次 長	栗洲 敬司
コンプライアンス推進室長	大西 豊
教 育 戦 略 課 長	酒卷 英紀
教 職 員 課 長	草野 純一
福 利 厚 生 課 長	植田 淳司
教 育 文 化 政 策 課 長	加藤 弘道
教 育 総 務 課 長	勢井 研
教 育 総 務 課 副 課 長	樫本 晃一

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

委員長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

教育長 9月定例県議会における質疑応答の概要等について報告する。

[議 事]

委員長 報告事項1、報告事項5を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項2 阿南市地域の高校再編について》

委員長 報告を求める。

教育戦略課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

委員長：新高校は、卒業後の進路をどのように想定しているのか。

教育戦略課長：総合選択制や選択普通科目の充実により大学進学を目指すとともに、阿南市は産業の集積地であるので、地域の企業や産業の即戦力となる人材を育成する専門教育を展開する。

委員長：定員はどのようになるのか。

教育戦略課長：開校する平成30年度の数値を今正確には言えないが、仮に今年開校するのであれば、今年4月の阿南工業高校125名、新野高校80名の定員を合わせた205名を定員設定の一つの基準と考える。

坂口委員：今回の計画案は、両校のハードをうまく活用しながら、教育内容も充実さ

せる積極的な再編統合により、徳島ならではの充実した教育環境を創って  
いこうという趣旨なのか。

教育戦略課長：そのとおりである。徳島から、全国に誇れるような産業高校を創って  
参りたい。

教育長：単なる再編統合でなく、新たな魅力を創り、今求められている教育を行って  
いくという積極的な意味合いを込めている。

委員長：新野高校の校地に人工芝のホッケー場を新設し、スポーツ振興にも繋げてい  
くのか。

教育戦略課長：阿南工業高校の人工芝多目的球技場、中浦緑地の人工芝ホッケー場と  
合わせて人工芝ホッケー場が3面とれる県は限られている。今回の新  
設を契機に地域のスポーツ振興を図るとともに、全国大会などを誘致  
できるようにしたいと考えている。

委員長：新たな学科ができると、その教育を行うための教員の育成が必要になるので  
はないか。

教育次長：現在の阿南工業高校は、機械科、電気科、建設科があり、新高校はこれを  
進化発展させる構成となっているので、工業科は対応できる。新野高校に  
は農業系の教員がいる。ある程度今の人員で対応できると考えているが、  
他校との人事交流により充実させていく。

委員長：必ずしも新たに外部から呼ばなくても、教員自身が新たな分野に挑戦して、  
生徒と一緒に新しい分野を作っていくつもりで、教員自身が勉強してほしい。

教育長：大学や農業大学校とコラボしながら、教員のスキルアップを図って参りたい。

田村委員：人が生きていく上で重要な農業や食を、農工商の連携により新しいものに  
していく、この高校再編はこれからの時代にマッチする形であると思う。  
阿南では、植物工場もどんどん作られているので、そのリーダー的な存在  
となるよう活性化できればよいのではないか。大学との連携を密にして、  
高校生が大学生や大学の教員との研究や活動ができれば、高校生が世界へ  
繋がっていけると思うので期待したい。また、地域開放の植物園では全国  
から見学に来るような植物園実習が行えると、徳島が全国に誇れる高校が  
生まれると思う。

坂口委員：宝田キャンパスと新野キャンパスの行き来について、しっかりフォローが  
用意されているのか。

教育戦略課長：車で20分程度なので、スクールバスを運行し、生徒に不都合が生じ  
ないようにカリキュラムを組んで参りたい。

坂口委員：地域の生徒数や高校の志望者数のこれまでの前提と今後の見込みを踏まえ  
た上で、宝田キャンパスを座学のメインに使うことに問題は生じないとい

うことか。

教育戦略課長：新高校は、全国初の農工商連携の高校となる。総合選択制を導入するため、座学はみんなが集う場所で集中して行う。ただし、座学の中でも実験実習を伴うようなものは新野キャンパスでもできるようにする。人口が阿南市北部に集中して生徒数が多いことと、義務教育と違い、行きたい高校に行くという傾向が強く、阿南市南部から市中心部や小松島市に通うなど流動性が高いことから、生徒が通いやすい場所という視点で、宝田キャンパスを座学のメインにすることとした。

西委員：全国的に昔とは環境が変わっている。そこに行きたいという思いがあれば、20分、30分かけても行くと思う。専門性を高くして、生徒が学びたいもの、資源をそこに集中させていくことが必要だろう。

委員長：地域の企業や産業と総合的な支援ができる体制が必要である。高校生にとって就職や人生に繋がるという、先が見える仕組みを構築できれば、総合産業高校としての魅力が出てくると思う。

教育長：いただいた御意見を反映し、専門性の高い柔軟な教育が行われ、地域の方々にも活用していただける学校づくりを目指して参りたい。

### 《報告事項3 人事委員会勧告等の概要について》

委員長 報告を求める。  
教職員課長 内容等を報告する。

#### 〈質 疑〉

委員長：勧告どおり実施された場合、どれくらいの予算が必要か。

教職員課長：教職員分は約5億円で、そのうち義務教育費国庫負担金の対象となるのが1億円ぐらいである。

坂口委員：勧告にはどれくらい拘束力があるのか。手続きを経れば、自動的に教職員の給与に適用されるのか。

副教育長：民間企業であれば労使交渉で給与が決まるが、公務員は労働基本権が制約されているため、第三者機関である人事委員会が民間の実態を調査し、職員と民間従業員との給与水準を比較して、公民較差があれば、公務員の給与改定について勧告する。県は、基本的に人事委員会勧告を尊重している。

坂口委員：教職員と行政職では給与の基準、仕事の内容が異なると思うが、その違いは反映されるのか。

副教育長：人事委員会は行政職の職員と民間の事務・技術関係従業員の役職・年齢等  
が同じ者同士を比較し、給料表等の改定を勧告する。教育職給料表は別に  
あるので、行政職給料表との均衡を考慮して改定される。

坂口委員：教職員の給与の最終的な決定権者は誰になるのか。

副教育長：条例案及び予算案を教育委員会に付議し、最終的には県議会の議決を経て  
条例を改正し、予算を計上することとなる。

#### 《報告事項4 県指定文化財の指定解除について》

委員長 報告を求める。

教育文化政策課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし。

[非公開]

#### 《報告事項5 徳島県立埋蔵文化財総合センターの愛称の選考結果について》

#### 《報告事項1 公益通報の受付・処理状況（平成27年7月～9月分）について》

#### 《議案第35号 退職手当の支給制限処分について》

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後2時35分